

Ⅱ 都市計画の目標

1. 都市の将来像

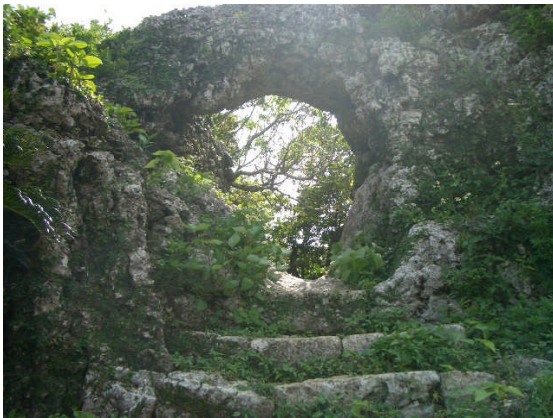
本区域は、沖縄本島南部に位置する旧佐敷町、旧知念村、旧玉城村、旧大里村の4町村が、一体的な行政施策の展開によるまちづくりを目指して、平成18年1月1日に市町村合併により誕生した南城市（沖縄本島以外の島しょを除く）の区域であり、平成17年現在、人口38,546人、世帯数11,178世帯となっており、美しい自然環境と琉球開闢伝説の残る地域としての歴史・文化を背景に、豊かな精神文化によって育まれた美しい風土を有している都市です。

本区域では、これらの特長を活かすとともに、郷土を誇りに思い、愛する心を持つ市民の精神を大切に都市づくりを進めていくことが重要と考えられます。

このことを踏まえ、おおむね20年後は次のような都市の実現を目指します。

①歴史と自然にふれ合う都市

本区域は、ハンタ緑地や自然海岸等の優れた自然環境や、それらと一体的にグスクなどの魅力ある歴史資源が保全されています。また、地域でとれた野菜や魚など新鮮なものを食することができる地産地消などによる環境負荷の軽減に継続的に取り組み、持続的発展が可能な循環型の社会基盤が確立されつつあります。



②様々な人々が交流する都市

魅力ある自然環境、歴史環境が保全・活用されている本区域には、その癒しを求めて、県内外から観光客が数多く訪れています。さらには、農業や漁業を実際に体験するなど体験滞在型の観光も盛んになるとともに、充実した道路整備によりアクセシビリティの向上も図られ、交流人口が増加しています。



③ユイマールの心が息づく都市

地域の人々が地域を大切にする心を醸成することにより、自然環境や良好な景観が保全され、美しい街並みが維持、形成されています。地域の街並みについては自らルールを作るなど、地域が協力しあうユイマールの心が住みよいコミュニティを形成しています。

④魅力と活力が集積した都市

本区域の市街地においては、良好な居住環境が形成され、業務施設等の就業の場も充実しており、さらに、新たに産業も誘致され、都市機能の充実したコンパクトで魅力ある市街地を形成しています。



⑤自然環境や営農環境と調和した活力ある都市

秩序ある土地利用が図られている本区域は、優良農地が広がり、良好な自然環境が守られており、それらと調和した形で田園集落が維持されています。集落においては、子供からお年寄りまで誰もが安心、快適に暮しており、活力あるコミュニティの中、伝統文化・芸能の継承や安心して子育てをできる環境が整っています。また、公共交通の充実や充実した道路網の整備により日常生活における利便性も向上しています。



2. 人口及び産業の規模

(1) 人口

本区域における人口を次のとおり想定します。

(平成17年時点)

区分	年次	平成17年	平成27年	平成37年
	都市計画区域		38.5千人	38.5千人

注) 国勢調査をベースに推計

(2) 産業

本区域における将来の産業規模を次のとおり想定します。

区分	年次	平成17年	平成27年	平成37年
	生規 産模	工業出荷額	209億円	240億円
卸小売業販売額		241億円	287億円	305億円
就 業 構 造	第一次産業	2.1千人(12.5%)	1.8千人(10.0%)	1.6千人(9.4%)
	第二次産業	3.4千人(19.4%)	3.5千人(19.8%)	3.5千人(19.6%)
	第三次産業	11.8千人(68.1%)	12.6千人(70.2%)	12.6千人(71.0%)
	計	17.3千人(100%)	17.9千人(100%)	17.7千人(%)

注) 沖縄県の工業、沖縄県の商業をベースに推計

3. 現状と課題

●人口流出の抑制と就業場所の確保

本区域の人口は増加基調にありましたが、現在、少子高齢化が進行し、特に年少人口の減少が著しく、今後は人口の減少も考えられることから、人口流出に歯止めをかけるための施策が必要となります。

このため、適正規模の都市的土地利用を誘導するとともに、若年層に魅力のある居住環境を整えた受け皿づくりや、子育てや教育環境などソフト施策の充実、定住を促進する就業の場の確保などを図ることが求められます。

●市街地の整序と伝統的集落の保全

本区域は、佐敷地域と大里地域の一部においては用途地域が指定されていますが、既存の住宅団地や工場等においては用途地域が指定されておらず、市街地像が明確に位置づけされていないのが現状です。このため、都市的土地利用を行う区域においては、市街地像を明確にして、秩序ある土地利用の規制と誘導を行うことが必要です。

また、石畳や石垣、屋敷林などの伝統的な要素を残す集落も残っており、今後も良好な環境の保全が望まれます。

●観光産業を支える歴史資源等の保全・活用

本区域には、世界遺産に登録された斎場御嶽をはじめ、知念城跡、糸数城跡など多くの歴史資源があり、またビーチやゴルフ場などのレクリエーション施設が立地するなど、観光資源を多く有しています。また、民泊や農業体験・漁業体験といった体験滞在型の観光の取組みなど、本区域ならではの観光を展開しています。このため、本区域の観光産業を支える面からも歴史資源や自然環境を保全し、活用していくことが望まれます。

●都市活動の軸となる骨格道路網の形成

本区域は、国道331号等により那覇市方面等と連携していますが、高低差のある地形条件のため道路が屈曲したものが多く、区域内ネットワークの形成がされにくい状況となっています。

●優良農地及び自然環境の保全

本区域の土地利用は約30%を農地が占めており、区域全体の約45%が農業振興地域農用地区域に指定されています。農地は本区域において、産業のみならず、自然環境要素、景観要素としても重要です。したがって、優良農地及びその周囲において無秩序な市街化の進展を抑制し、その保全・活用が求められます。

また、本区域中央部にはハンタ緑地と呼ばれる緑地帯や自然海岸など良好な自然環境に恵まれています。これらは観光資源であると同時に、貴重な動植物の生息・生育空間であり、また水源かん養機能など多様な機能を有していることから、積極的に保全・活用することが求められます。

●メリハリのある土地利用の規制・誘導

本区域は、これまで那覇広域都市計画区域の一部として、区域区分が適用され、佐敷地域及び大里地域においては市街化調整区域が96%以上を占め、計画的な都市的土地利用が困難な状況にありました。

このため、知念地域及び玉城地域を含め、新たな都市の将来像を目指し、都市計画の適正な見直しを行うことが必要です。

4. 都市づくりについて

1) 基本理念

本区域は、琉球開闢伝説の残る地域としての歴史・文化、斎場御嶽をはじめとする多くの歴史資源や豊かな自然環境を有していることから、それらを守り、育て、癒しの空間として都市づくりに活かしながら、ユイマールの精神のもと、地域の人々が協力しあいながら健康に暮らす、「人と自然・文化が調和した福寿で活力に満ちたユイマールのまち」の実現を目指します。

2) 広域的な位置付け

本区域は、海、緑、農地、市街地及び集落などの空間を有しており、一体の都市として、これらを調和させていくことが望まれます。

特に、ハンタ緑地や海岸に代表される自然環境や斎場御嶽に代表される歴史資源が多く存在するなど、隣接する那覇広域とは異なる魅力を有した都市といえます。このような自然環境や歴史資源は、本区域のみならず本島南部における大きな財産であり、これらを保全していくことが本区域の魅力の向上につながると考えられます。

したがって、これらの恵まれた自然や歴史資源を保全及び活用することで特色ある都市の形成を図っていくとの考えから、次のような広域的な位置付けを設定します。

歴史交流田園都市圏：人と自然・文化が調和した福寿で活力に満ちたユイマールのまち

3) 基本方針

①美しい海と緑を守り育てる環境共生型都市圏づくり

自然の恵みである「海」、「緑」の保全を図り、地域の重要な個性として後世に継承するとともに、自然環境や景観を損なわないかたちでの観光資源・レクリエーション資源としての活用を図ります。特に、あざまサンサンビーチから奥武島にかけてのサンゴ礁景観の特徴的な海岸部については、サンゴ礁景観の特徴的な地域であり、観光ビーチや漁港が点在することから、産業と自然環境との調和・共生を図ります。

緑については、ハンタ緑地が市域中央部に位置しており、広域的な緑地軸を形成しているため、保全に努めます。また、都市的土地利用を図る場合においては、周辺環境・景観に十分配慮したものとします。

②営農環境に配慮した田園都市圏づくり

美しい自然環境と歴史文化資源に恵まれた本区域の地域特性を活かし、望ましい都市構造を構築するため、土地利用の規制・誘導方策を進めることにより、計画的な土地利用を図ります。

特に、本区域の良好な田園環境を保全するため、優良農地や自然環境を保全すべき土

地は明確に保全を位置づけ、メリハリのある計画的な土地利用の規制・誘導を行っていきます。なお、都市的土地利用については、農業施策との整合を図りつつ展開します。

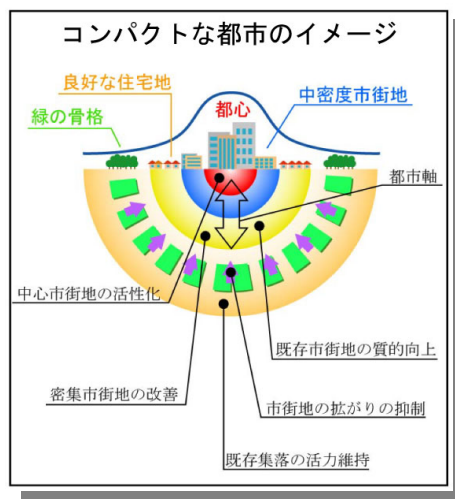
③効率的な都市基盤整備によるコンパクトな都市圏づくり

本区域の魅力である自然環境や、田園環境を保全しつつ、都市的サービスを享受することが可能な都市圏を形成するため、効率的な都市基盤整備とメリハリある土地利用を図ります。

特に、本区域内外の連携・交流を促進する都市軸の整備・充実を図るため、南部東道路及び国道 331 号を核とした骨格道路ネットワークの形成を推進します。

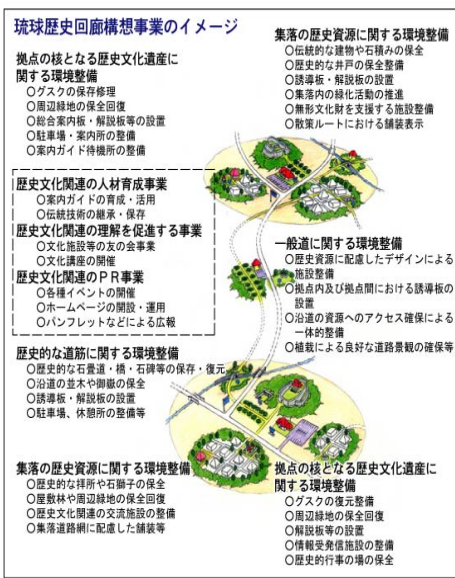
また、潤いある生活環境づくりを支える基盤として、下水道や生活排水施設、公園・緑地の整備・確保や、産業活動の基盤等の整備を図ります。

さらに、無秩序な市街化は抑制し、新たに都市的土地利用を展開する際は、計画的に都市基盤を配置・確保するため、土地区画整理事業や一体的開発と連動した地区計画の活用を促進します。



④歴史・文化・自然を活かした交流都市圏づくり

斎場御嶽やグスクをはじめとする歴史文化遺産、水と緑の自然環境などの地域資源を保全・活用し、観光交流の拠点づくりやネットワークを強化することにより、「琉球歴史回廊」の形成を図るとともに、琉球開闢伝説の残る地域として、独自の歴史、文化や平和を願う心を次世代に伝え、国内外に発信する文化の薫りが高く、風格のある都市圏を構築します。



4) 将来都市構造

本区域を含む中南部都市圏においては、西海岸側を都市的土地利用が主体の高次都市機能集積ゾーン、東海岸側を緑地等の自然的土地利用が主体の自然環境共生ゾーンと位置づけ、将来においても、その都市構造を基本としつつ交通軸の強化等により、都市圏全体での連携と交流を深めていくことが重要といえます。

そのなかでも本区域は、豊かな緑と海そして農地が広がり自然環境に恵まれた区域で、

起伏の大きい地形条件を有しており、これらを踏まえた都市構造を想定します。

本区域の中央部に位置するハンタ緑地を都市の背骨とし、南部東道路を東西方向の道路軸と位置づけます。国道 331 号等により形成される道路ネットワークにより、大里、佐敷、知念、玉城の旧 4 町村の拠点を結び、南部東道路へのアクセス道路を形成することで本区域の一体性を高めていきます。

佐敷地区の国道 331 号沿道一帯や大里地区の主要地方道糸満与那原線や主要地方道南風原知念線を骨格軸として計画的な都市的土地利用を進め良好な市街地の形成を目指すとともに、その他の地域においては、無秩序な市街化を抑制しつつ、集落域については周辺環境と調和した良好な環境の育成に努めていきます。

また、知念、玉城の海岸部においては、自然資源や、斎場御嶽などの歴史文化資源などの自然的土地利用に配慮しながら、レクリエーション機能を配置します。